

らの越境大気汚染の影響を受けていると考えられた。また、平成18年度春期に「九州西部」を中心に広範囲でnss-SO₄²⁻沈着量が顕著に増加しており、同時期に光化学オキシダントも高濃度となる現象が観測されていることから、春期にも越境大気汚染の影響を受けていることが推察された。越境大気汚染の影響についてさらに明らかにするため、光化学オキシダントの研究などとも連携して、さらにデータの蓄積・解析を行っていく必要があることを報告した。

・中村雅和、友寄喜貴^{*1}、大石興弘^{*2}、藤川和浩^{*2}、岩切淳、祝園秀樹、溝口進一、富山幸子、九州衛生環境技術協議会大気分科会、山口県環境保健センター

○九州・沖縄・山口地方における酸性雨の状況について

第50回大気環境学会年会

(平成21年9月18日 横浜市)

^{*1}: 沖縄県衛生環境研究所, ^{*2}: 福岡県保健環境研究所

九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究の第Ⅱ期中間として平成14～19年度のデータを解析した。解析の結果、第Ⅰ期調査と同様に、冬期における降水中のnss-SO₄²⁻濃度は本地方の北に位置する地域ほど高く、nss-SO₄²⁻沈着量は「九州北部」で他の地域より多い傾向が確認された。また、冬期において、「九州北部」、「九州西部」及び「九州中部」で平成18,19年度のnss-SO₄²⁻濃度及び沈着量が平成14～17年度と比較して上昇していた。これらのことから、気流等を考慮すると、本地方では冬期に、大陸からの移流の影響を受けており、近年その影響が増大している可能性があると考えられた。春期には、「沖縄」を除くすべての地域でnss-SO₄²⁻沈着量が平成14～17年度と比較して平成18,19年度に顕著に増加しており、光化学オキシダントも同時期に高濃度事例が観測されていることから、大陸からの移流の影響によるものであることが推察された。さらに、粒子状のnss-SO₄²⁻濃度の季節変化が光化学オキシダント濃度の季節変化のパターンと類似していることから、汚染原因に共通する要因がある可能性が考えられた。今後、光化学オキシダント等の他の研究とも連携して、大陸からの越境汚染の影響をより明らかに

していく必要があることを報告した。

・中村雅和、友寄喜貴^{*1}、大石興弘^{*2}、藤川和浩^{*2}、岩切淳、祝園秀樹、溝口進一、富山幸子、九州衛生環境技術協議会大気分科会、山口県環境保健センター

○九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究(第Ⅱ期)について

第35回九州衛生環境技術協議会

(平成21年10月8日 大分市)

^{*1}: 沖縄県衛生環境研究所, ^{*2}: 福岡県保健環境研究所

九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究(第Ⅱ期中間)の解析結果について報告した。九州・沖縄・山口地方は、冬期及び春期に大陸からの移流の影響を受けており、近年その影響が大きくなっている可能性があると考えられた。東アジアの大気汚染物質の排出量は、今後も増加することが考えられるため、研究を継続し他の研究とも連携する必要があること及び越境汚染の影響をより明らかにするため、乾性沈着体制を充実させる必要があることを報告した。

・赤崎いずみ、岩切淳、関屋幸一、中村公生、富山幸子^{*1}、祝園秀樹

○宮崎県内河川におけるダイオキシン類の分布状況及び発生由来の推定

第35回九州衛生環境技術協議会

(平成21年10月8日 大分市)

^{*1} 環境森林課

平成14年度から20年度に測定した、県内河川水におけるダイオキシン類について、その分布状況をまとめた。また異性体の構成比率から発生由来の推定を試み、以下の結果を得た。

① 県内河川水のダイオキシン類は全ての地点で環境基準を達成しており、全国平均と比較しても低い値であった。

② PCDDs/PCDFsの発生由来としては、すべての地点で農薬(CNP, PCP)が推定され、燃焼系由来が推定されたのは数地点のみであった。

③ Co-PCBsの発生由来としては主にPCB製品由来が推定された。